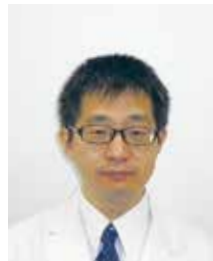


# ドクター + 教えて

## ガングリオンについて

磐田市立総合病院 整形外科 科長 鈴木 隆辰



皆さんは、ガングリオンという病気を知っていますか？「癌」とは全く関係なく、袋の中にゼリー状の液体が詰まったので、体のいろいろな部分にできます。特に手関節（手首にある関節）の背側にポッコリできるケースが多く、目立つようになると整形外科を訪れる患者さんが多くいます。

原因はいくつかの説がありますが、「できてしまった袋に関節液などの液体がたまり、濃縮してゼリー状になる」という説が有力です。

ガングリオンそのものには痛みがないものがほとんどですが、神経を圧迫したり関節の間にできたりすると痛みが生じます。また、薄くなった皮膚の下にできると、破れてゼリーが漏れ出すこともあります。

自然に消滅することもあるため、症状がなくなつていても気にしないようであれば放っておいても構いませんが、一般的に二つの治療法があります。一つは、注射針を刺してたまったゼリーを抜く方法です。これで発症しなくなる場合もありますが、まだ袋が残っている場合も多く腫れてくる場合も多くあります。もう一つは、手術で袋ごと切除する方法です。こちらの治療法では気になるガングリオンは無くなりませんが、関節の圧が高くと新たに袋ができる場合があります。

良性の疾患ですが、根治させようとするとなかなか厄介な病気です。ガングリオンができてしまったら、治療法について整形外科医としっかり相談してください。

vol.77

### 多数派と少数派の人権感覚

ふれあい交流センター センター長

藤田圭二

人権  
コラム

私は、平成26年度末をもって閉校となった豊岡東小学校を昭和44年度に卒業しました。今年、半世紀ぶりに初めての同窓会をしました。50年前にタイムスリップしたようで、楽しいひとときでした。

私たちの時代には、豊岡東小学校に分校がありました。旧豊岡村敷地地区の、万瀬、虫生、大平北の3地区は、大平分校に通っていたのです。この3地区の子どもたちは、1年生から3年生まで分校に在籍し、4年から本校に来て一緒に勉強をしました。私が4年生のとき、本校出身は27人、分校出身は12人の計39人で構成されていました。比率で言うと、おおよそ2対1でした。その分校出身の一人のMさんが、「あの頃は、分校から来たと言うだけで、よくいじめられたなあ」と、しみじみと言いました。私は本校出身で、あまり記憶になかったのですが、「分校」と言うだけでかなりの差別を受けていたようです。子どもは天真爛漫と言われますが、時として冷酷な一面もあります。いじめられた側はそれほどでもないのに、いじめられた側のダメージは大

きいものです。しかし、このMさんはこうした差別を受けた経験を跳ね返そうと努力を重ね、今ではかなり活躍しています。私はこのMさんと話をしていて、いつの時代にも、多数派が少数派をいじめたり差別したりすることがあるのだなあと、改めて考えさせられました。小学生のときには、自分の一言が相手をどれだけ傷つけていたのかに、思いを馳せることができなかったのかもしれない。時として、多数派は少数派を差別し、いじめる結果に繋がる可能性があることを、私たちは常に考慮しなくてはならないと思います。人種、性的マイノリティー、貧困、同和問題、職業など、数え上げれば切りがありません。

民主主義は、自由・平和・平等などがその根底にあるべきで、基本的人権は最優先されなくてはなりません。多数決で物事を進めていくことには落とし穴があります。数が多ければ、正しいとばかりは言えないのです。楽しい同窓会ではありましたが、今後の自分のある方について、考えさせられる機会でもありました。